



◀校庭に掘られた防空壕



この付近は、宇都宮城下の西端に置かれた武家屋敷町でした。江戸時代の初めに代官屋敷が置かれていたことから、代官町と呼ばれるようになりました。宇都宮藩の代官は約80人で、一つの屋敷の大きさは600〜800坪ほどでした。「大寛町」となったのは明治時代の初め頃です。

戦前は、武家屋敷町の名残で、江戸末期頃から続く戦中は、学校の校庭にも、各家庭の庭にも防空壕があり、空襲に備えていました。当時は、女学生さえも戦闘機の組み立てに従事しなければならぬほど、人手も物資も不足していました。

戦時中は、学校の校庭にも、各家庭の庭にも防空壕があり、空襲に備えていました。当時は、女学生さえも戦闘機の組み立てに従事しなければならぬほど、人手も物資も不足していました。

現在では、住民は少なくなり、高齢化しましたが、新しい道路も通り、旧知の友人・知人がいる便利で落ち着いた、良いまちだと思います。



だい かん ちょう
代官町
現在の大寛1・2丁目辺り

古いまちの呼び名と
こぼれ話を紹介します



大寛2丁目(臥龍会本部)
会長 **日賀野 溥**さんと(左)
荒井 雅子さん(右)

はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

日々の思いを表現
交通安全作文で内閣総理大臣賞

姿川中央小学校 木戸 瑛梨子さん



「最初は夢かと思いましたが。作文には文字数の制限があり、通学路の危険な場所をまとめることが大変だったので、受賞できてとてもうれしかったです」と話す木戸瑛梨子さん。内閣府などが主催する昨年度の交通安全ファミリー作文コンクール小学生の部で、3240点の応募の中から、最高賞の内閣総理大臣賞を受賞しました。直接、安倍晋三首相から賞状を受け取り、「とても緊張しましたが、改めて賞状を見ると、受賞できて良かったと思います」と振り返ります。

読書が好きで、自分でも物語を書いているという木戸さん。「文章を書くときは、どうしたら相手にうまく伝わるかいつも考えます」と話します。

今回の受賞作品は、4年生で登校班の班長になった思いを書いた「初めての班長」。「えっ私が班長？ むりだよ。」の書き出しから始まり、班長になって先頭を歩くことで通学路での危険な場所が分かったことや、車や自転車の怖さを感じるようになったこと、そして、班長として感じる責任も表現されています。また、交通指導員や親切な車の運転手への思いもつづり、「毎日安全に登校できることうれしさも伝えたかった」と笑顔の木戸さん。

「今後も、交通安全に限らず、人権の分野や読書感想文などでも、今回のようなすばらしい賞を取りたいです」と、今後の目標を話す木戸さんの表情は、明るく輝いていました。